

# Book Review Corner

ブックレビューコーナー



## ① 安岡明子 訳

### 『冬のソナタで始める韓国語：シナリオ対訳集』

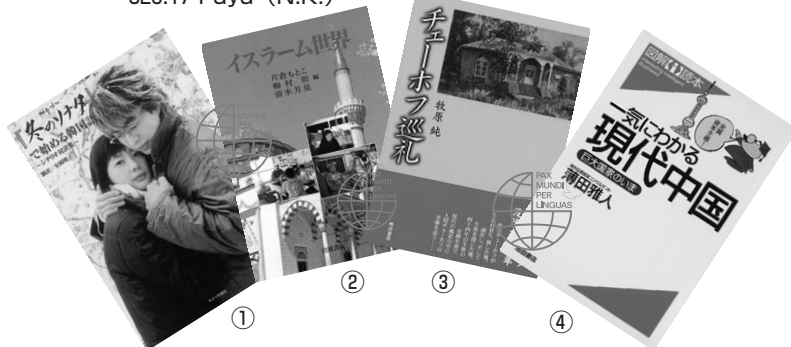
(キネマ旬報社)

本書は皆さんよくご存じの韓国ドラマ「冬ソナ」のシナリオ対訳集です。韓国語にルビがふられているので、ハングル文字が読めない方でも大丈夫です。

巻末に簡単なハングル文字の基本と発音の仕方が解りやすく書かれていますので、無理なく韓国語を学ぶことができると思います。

本書の他にも第一閲覧室にいろいろな映画のスクリーンが置かれていますので、次はどのシナリオに挑戦するか考えてみてください。

829.17-Fuyu (N.K.)



## ② 片倉もとこ、梅村坦、清水芳見 編

### 『イスラム世界』

(岩波書店)

連日のように中東を中心にして繰り広げられているテロや抗争。今日ほど世界の耳目がイスラム圏に注がれている時はないでしょう。

テロ＝イスラムという先入観が定着し、紛争の一方的な火種として捉える傾向があることに對して、それは一種の偏見であり、むしろ、ある種の共通性と普遍性をもち、国家という枠組みを外れて、相互扶助の精神で人々の生活と密接に関わっていることを認識する必要があることを本書は示唆しています。

302.28-Isur (T.K.)

## ③ 牧原純 著

### 『チェーホフ巡礼』

(晩成書房)

チェーホフ(1860-1904)の没後100年が経ちました。享年44才で「桜の園」、「三人姉妹」はそれぞれ43才、40才に完成しました。彼は、歴史上激動の時代を生きたこととなります。

本書は演劇、放送の仕事の傍ら、ロシア演劇関係の図書、台本の翻訳や著作がある著者がチェーホフ縁の地を辿ったものです。彼が生まれてから19才でモスクワ大学に医学生として出発するまで過ごした南ロシア・アゾフ海の港町タガンログ、30才に訪れたシベリア、サハリン、その他の都市も作品と絡まって登場し、彼の格調高い戯曲を理解するための良い案内書となることでしょう。

980.28-Mak (S.O.)

## ④ 薄田雅人 著

### 『一気にかかる現代中国』

(池田書店)

中国は現代、全世界から注目されている国の一つです。中国の動向が日本に与える影響も大きく、日中関係も大変重要視されています。中国とは、どのような特徴のある国なのでしょう。

本書では、政治や経済など、現代の中国に関する事柄が、図表を用いて解説されており、現代中国の良い所と悪い所の両方がよくわかります。中国の現状を様々な面から知る上で、お勧めできる書だと思えます。

302.22-Sus (N.I.)